

7. 河川空間の現状

7.1 河川敷等の利用状況

(1) 河川利用実態調査

平成18年度の河川利用実態調査によると、各調査日の河川利用者数は、春季の5月1日の4,941人が最も多く、利用形態別内訳では、同日の散策が約3,086人と約62%を占めている。

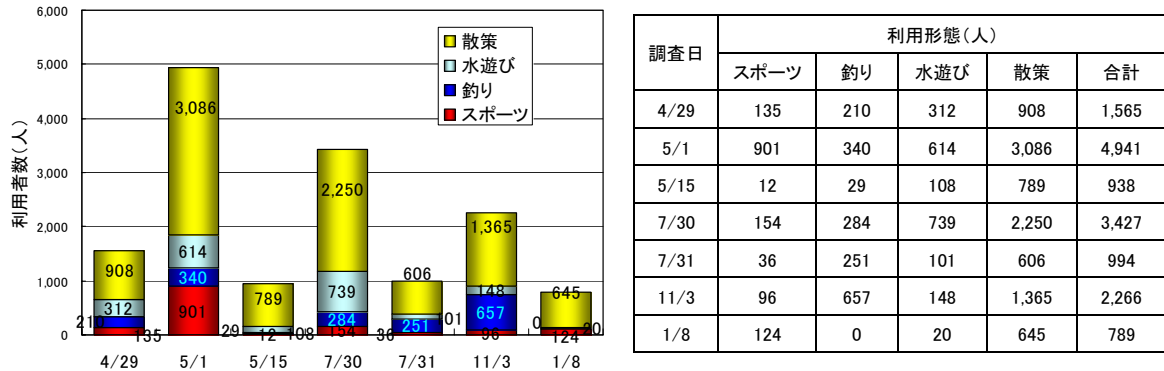


図 7-1 季節別の利用者数（平成18年度）

久慈川の大臣管理区間（河口～31.0k）の河川空間利用者の年間利用者数（推計値）は約34万人である。河川空間を利用する人の2/3以上が散策を目的としており、次いで釣りを目的として訪れる人が15%である。

利用場所は高水敷が51%と最も多く、次いで堤防で楽しむ人が23%と多い。これは散策を目的に訪れる人が多いためと考えられる。

表 7-1 利用形態別及び利用場所別利用者数（平成18年度）

区分	項目	年間推計値（人）	利用状況の割合
利用形態別	スポーツ	23,733	
	釣り	48,934	
	水遊び	38,251	
	散策	226,149	
	合計	337,067	
利用場所別	水面	13,909	
	水際	73,276	
	高水敷	174,032	
	堤防	75,850	
	合計	337,067	

(2) 主な利用

1) 上流部

源流の八溝山は奥久慈県立自然公園（茨城県・福島県）に指定され、多くの人が豊かな自然を求め、登山やヤマメ・イワナの溪流釣り等に訪れる。

上流部の棚倉町、埴町、矢祭町の細長い谷底平野を流れる区間は、高水敷が狭く、公園、グラウンド等の利用施設はほとんど見られないが、川沿いに全長約 22 km に及ぶ久慈川サイクリングロードが整備され、地域の人々がサイクリングや散策に利用している。



久慈川源流区間のヤマメ釣り
(棚倉町)



久慈川サイクリングロード（棚倉町）

写真7-1 上流部の河川利用

2) 中流部

中流部は八溝山地と阿武隈山地の山間渓谷で、奥久慈渓谷と呼ばれ、そのほとんどの区間が奥久慈県立自然公園（福島県・茨城県）に指定されている。

アユ釣りやカヌー等の久慈川の清流を楽しむ人が多く訪れる。また花火大会や灯ろう流し、祭り等のイベントが久慈川沿川の市町村で行われており、袋田の滝や奥久慈渓谷等の景勝地や温泉等の観光資源もあることから、首都圏都心部から多くの観光客が訪れる。



花火大会と灯ろう流し
(大子町)



アユ釣り（矢祭町）



カヌー（大子町）

写真7-2 中流部の河川利用

3) 下流部

下流部は広い高水敷にグラウンドや親水公園が、堤防にはサイクリングロードが整備され、スポーツやレクリエーション、憩いの場として地域の人々に広く利用されている。また、広い砂礫河原で水遊びをする子供や、連続した瀬と淵でアユ釣りを楽しむ人を多く見かける。

栗原床固周辺は崖地・斜面林・湿地・河跡湖等の多様な環境を持ち、野鳥観察会や環境学習の場となっている。

河口周辺は、海や汽水に棲む魚を目当てにする釣り人や、広い河川敷でデイキャンプをする人、マリンスポーツを楽しむ人が多く見られる。



辰ノ口親水公園 (常陸大宮市)



高水敷の野球場 (日立市)



久慈川サイクリングロード (東海村)



河原の水遊び (常陸大宮市)



河口部の利用状況 (日立市)

写真7-3 下流部の河川利用

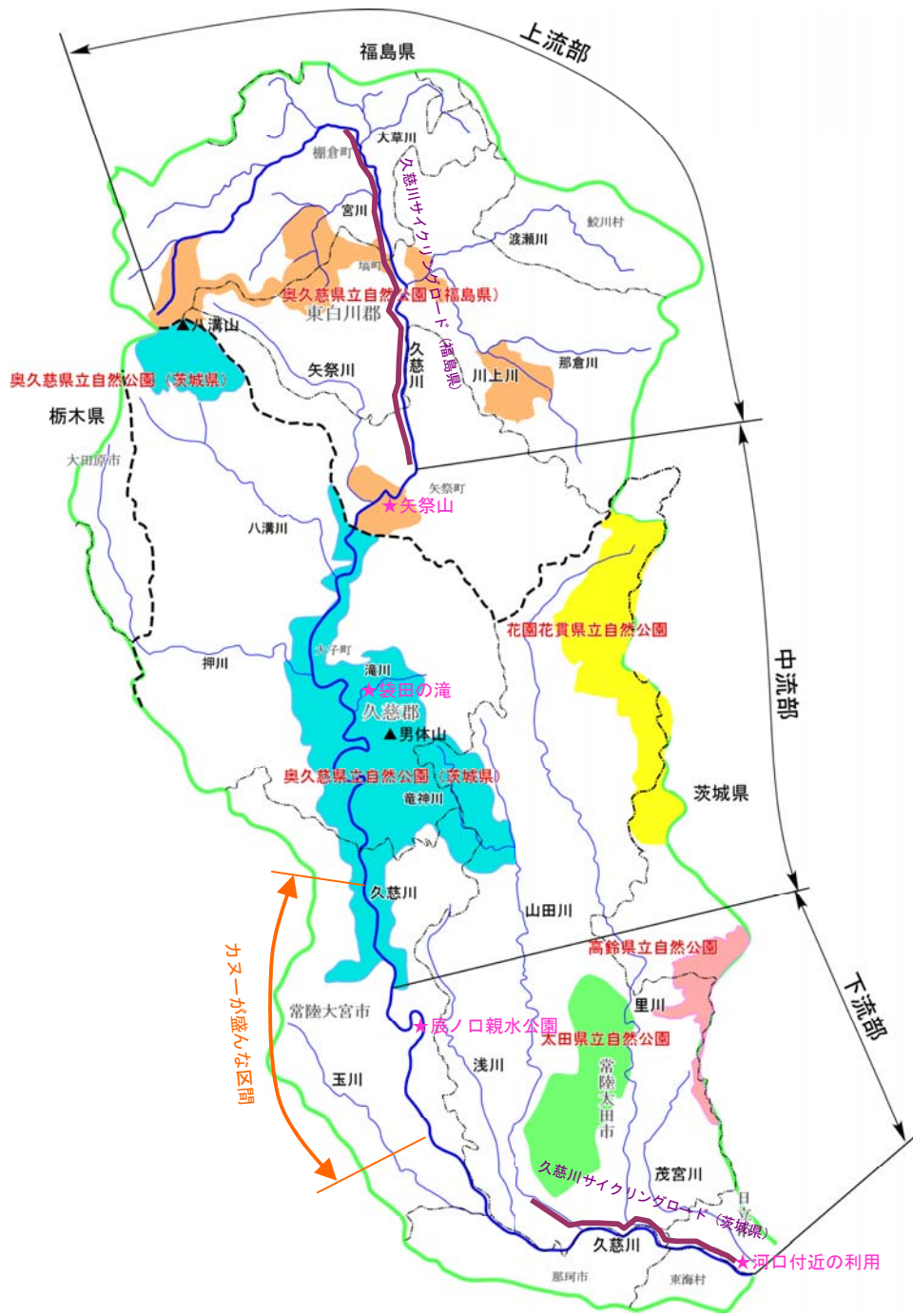


図 7-2 久慈川水系の河川利用